

逞しいブチハイエナ

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

野生動物の中でハイエナほど悪い印象を持たれている動物は、他に見当たらないでしょう。「ハイエナのように……」という形容詞のあとに続く言葉は、およそ好意的なものではありません。

アフリカ大陸のサハラ砂漠から南の、広い地域に分布するハイエナは、“クラン”と呼ばれる群れを作ります。年長のメスを中心に多い時は30頭以上がひとつの群れの構成員として、縄張りを守ります。

ブチハイエナは体長1メートルから1.5メートル、体重50キロから70キロにもなり、オスよりもメスのほうが大きい面白い動物です。大きな耳と尖った口が特徴で、前肢よりも後肢のほうが短いため、歩く姿も独特です。薄気味悪い人間の笑い声のよう

な、ハイエナの鳴き声も加わって、いつの間にかハイエナにとっては有り難くないニックネーム(草原の掃除屋だの、死肉漁り)が付けられてしまいましたが、実際のハイエナはずっと行動的な暮らし方をしています。

ハイエナの巣は草原に掘った穴の中で、全身が真っ黒な幼毛で覆われた子どもたちは母親の留守中は、根気良く巣穴の奥深くに身を潜めて待っています。他の野生動物の例にもれず、ハイエナの子もたちも幼いもの特有のかわいさを持っていますが、驚いたことにハイエナは隙があれば、何んと自分が所属している群れの幼獣を共喰いしてしまうこともあり、仲間といえども気を許すことはできません。

つい最近、ケニアのマサイマラで突然けたたましい叫び声を耳にし、急いで車を近づけますと、繁みの中で4頭のハイエナが仲間の1頭を執拗に追いかけて攻撃しているところでした。幼獣ばかりか、成獣同志でも殺し合いが行われるところが、他の動物と異なるハイエナの習性です。

ところでハイエナの狩りですが、通常は群れで行われます。主な獲物はヌー、シマウマ、ガゼルなどで、狙った標的を徹底的に追

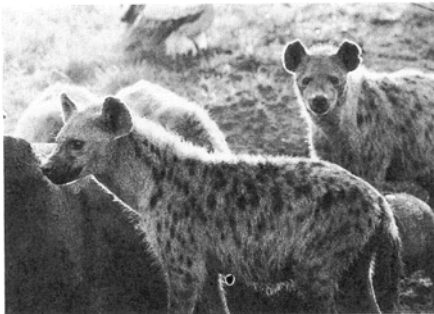


写真1 周囲を警戒するブチハイエナ

い詰め、一度定めた相手を逃がすことはまずありません。相手が死にもの狂いで逃れようともがいても、ハイエナの手にかかっただけでは成す術はありません。ハイエナが襲った獲物は尾や脚が欠けていることが少なくありませんが、これは攻撃の際のすさまじさを物語っています。空腹のあまり獲物が絶命する前に、食べ始めることも珍しくはありません。

ハイエナは並はずれた丈夫な歯と強い顎で、獲物の肉や内臓はおろか、皮や骨までも食べ尽くします。ハイエナの捕食の場面では、数十メートル離れていても、ガリガリと骨を砕く音が聞こえます。骨は完全に消化され、必要な栄養素を体内に吸収した後、余分なカルシウム分が排泄されます。そのため、排泄物は白いチョークの固りのように見えます。

一般にライオンの狩りの食べ残しを待つというイメージがハイエナには持たれていますが、その反対にハイエナの獲物をライオンが横取りするケースも、かなりの確率であります。特にタンザニアのセレンゲティとンゴロンゴロで行われた調査の結果を見ますと、ハイエナとライオンの面白い関係がよくわかります。



写真2 アフリカスイギュウに群らがるブチハイエナ

ハイエナとライオンに関する限りでは、ほぼ互角のように見えますが、ハイエナとチーターとでは、圧倒的にハイエナが優位に立っています。ハイエナはしばしば子連れのチーターに攻撃を仕掛け、チーターの幼獣の命を奪いますし、チーターが苦勞して手にいれた獲物も、あとからやって来て横取りするのです。体の大きさではほぼ同じのハイエナとチーターですが、迫力の差なのでしょうか。

余談ですが、アフリカにはブチハイエナよりも一回り小さく、斑の代わりに縦縞があるシマハイエナも暮らしています。シマハイエナは夜行性で、群れよりも単独行動をとるため、現地でも目撃される機会は少ないようです。

〈ハイエナひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国（ケニア、タンザニア、ウガンダなど）で話されている公用語のスワヒリ語で、ハイエナはフィシと呼ばれている。

▶野生のハイエナの寿命は約25年。生

まれて3年ほどで成獣になる。妊娠期間は3カ月から4カ月。

▶ハイエナはイヌのような外見をしているが、実際はジャコウネコに近いとされる。